

第85回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成29年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です。

「疑古・釈古論争」を考える ——日中間における古代史研究方法論上の諸問題

発表者：西山尚志副教授（山東大学儒学高等研究院）

第85回目を迎えた今回の研究会は、西山尚志副教授（山東大学儒学高等研究院）が担当し、最新の情報を盛り込んだ発表をいたします。つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記の要領で開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

【西山副教授発表要旨】

本発表は、中国や日本で現在もなお激論が繰り広げられている「疑古」と「釈古」という中国古代史研究方法について検討するものです。

1920年代から中国では顧頡剛らが「疑古」を喧伝し、中国古代の神話・歴史に対する批判を展開しました。それに対し、1925年に王国維は甲骨文などの新出土文献の重視を訴え、伝世文献と出土文献の内容を相互に証明しあう「二重証拠法」を提唱し、疑古派の過度な史料批判的態度を批判しました。この王国維の考えは後に「釈古」と呼ばれ、現在に至るまで広く支持されています。また「疑古」と「釈古」の形成には、重野安繹・久米邦武・白鳥庫吉・内藤湖南・林泰輔などといった日本の近代歴史学者とも少なからず関係があります。

本発表は主に「二重証拠法」や「釈古」の問題点の指摘に力点を置き、現代の日中間における歴史研究方法の違いや問題点などを検討します。

日時：2017年7月22日（土）午後2時～午後5時

場所：東京大学東洋文化研究所4階東アジア第一部門室（405）

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料
- 研究会終了後に懇親会あり

連絡先：〒176-0025 東京都練馬区中村南1-12-5
東京大学名誉教授 池田知久
電話：03-3926-8568